

ぜん 全

しん 進

全員で進もう!



確かな学び通信
2026.4.21

3年生「図書館たんていだん」

前回に引き続き、図書館での授業の様子を共有いたします。今回は、3年生の「図書館たんていだん」の様子です!

指導目標 ◎読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知(3)オ)

言語活動 図書館の地図を作り、本を探す。

評価規準例 読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。(知(3)オ)
読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことを積極的に知り、学習課題に沿って学校図書館の工夫について調べようとしている。

「本は友達」設定の趣旨

「本は友達」は、図書館などの施設の利用に関する知識を扱う系統と、さまざまな観点から「本」「読むこと」「読書」について考える系統の年間2か所（1年は3か所）を設定している。4月の「本は友達」では、学校図書館や公共図書館の利用に関する内容を知り、必要なときに本を探せる技能を身につけることを目的としている。

単元設定の趣旨

指導事項に関わって 多くの学校図書館では、日本十進分類法（NDC）を基準として配架されている。そのようなことをはじめとして、学校図書館の利活用のしかたについての理解を深め、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことがねらいとなっている。教科書では、「本のぶらわりのしかたのれい」として、児童にも分かりやすい言葉で示した一覧表も掲げているため、自校での分類のしかたに目を向けるきっかけとしたい。「本をさがしやすくするために、どのようなくふうがされていますか」という問いかけで学習課題を提示しているので、地図や本棚、「おすすめの本」コーナーなどの写真を手がかりに工夫をまとめるようにしたい。地域の図書館の利用も促していくとよい。

言語活動に関わって 「図書館たんていだん」として、「どのたなに、どんなしるいの本」があるか調べ、グループで学校図書館の地図を作る活動を設定している。各学校での工夫はいろいろあるので、掲示物や読書スペースなどさまざまなものに目を向けることが可能である。NDCの分類基準を知ることになるので、大いに役立つ。また、紹介コーナーや棚の番号を見ながら、読みたい本や必要な本を探す活動も設定している。関連して、さらに、読書記録の形式の例示も行っている。目的を決めて実際に本を探して読んだり、借り出したりする活動を勧めたい。

単元の位置づけ

2年上巻「図書館たんけん」で、学校図書館では本が「なま分け」されて並んでいることは既に学んでいる。本単元では、その経験を生かして、より体系的に分類や配架についての知識を身につけていく。

ここが学んだことは、実地のある科学読本棚を見て読むより「本」で学んだことを「ライブラリしよう」や、本を持って調べる活動を打ち出す下巻「すがたをかえるくら」で調べのひみつを教えます」へとつなげていく。

1 1 1 としよかんへいこう → 学校図書館に行く、マナーを学ぶ。

2 2 2 としよかんじなまよし → 本棚と並ぶ本を手がかりに、読みたい本を探し出す。

3 3 3 図書館たんけん → 本棚のくふう、調べ方を学ぶ。

4 4 4 図書館たんていだん → おもてなしの魔法が実現し、学校図書館の活躍を体験する。

5 5 5 図書館の達人になろう → 本のくふうや活用について学び、必要な本を探す。

6 6 6 図書館を使いこなそう → 日本十進分類法を活用して本を探す。

7 7 7 公共図書館を活用しよう → 公共図書館や図書館以外の施設を活用して、必要な本や情報を調べよう。

どこにどんな種類の本が仲間分けして置かれているのか、改めて地図と照らし合わせながら考えました。日ごろから読みたい本を簡単に見つけられるのは、この分類法に沿って本が整理されているからだ気づきました。

また、棚だけでなく、おすすめの本紹介や学年に合った本の面だしなど、図書館にはたくさんの工夫があります。そういった工夫を参考にどんどん本に親しんでいってほしいです!

分類法を意識的に活用できるようになると、調べ学習の際に、自分で棚から図書館資料を選択できるようになっていくのだと思います。

- 【授業の流れ】**
1. 図書館での本の探し方を出し合う。(経験を語る)
 - ↓
 2. 棚がどのように分類されているのか確かめる。(棚の位置や並びを確認)
 - ↓
 3. 分類法以外に図書館にある工夫を共有する。
 - ↓
 4. 今まであまり手にしなかった棚からも借りてみることを提案する。



図書館の地図を完成させよう!



地図を完成させる中で、普段あまり手に取らない本が置いてある棚に行きつきます。こうした活動を通して、「この棚にも、おもしろそうな本があるんだ」と気づき、読む本に広がりが出たらいいなと思います。

また、子どもたちが自然とかかわることができる場をつくりたかったので、地図を完成させる活動を取り入れました。「この棚には、〇〇の本があるから！類やんな」「地図はこっち向きでみると分かりやすいで」など、協力して完成をめざす姿が見られました。もちろん一人で集中して取り組む子もいました。めざす子どもの姿をイメージし、そこから逆算して活動を考えると何が適切か見えてきます!!!